

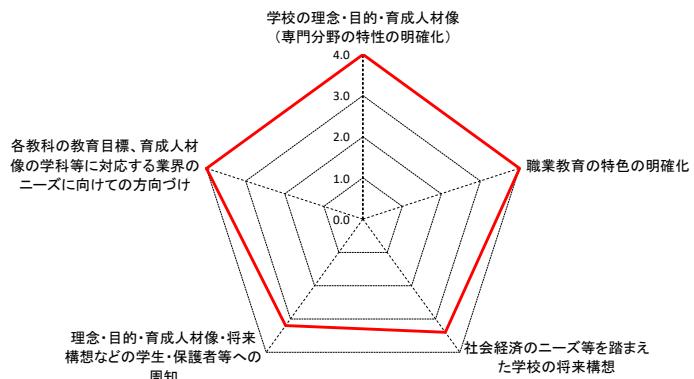
平成30年度 学校関係者評価のまとめ <学校関係者評価委員による評価と意見(改善策)>

釧路専門学校

4…適切、3…ほぼ適切、2…やや不適切、1…不適切

1 教育理念・目標

	4	3	2	1	平均	昨年度
学校の理念・目的・育成人材像(専門分野の特性の明確化)	5	0	0	0	4.0	4.0
職業教育の特色の明確化	5	0	0	0	4.0	4.0
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想	2	3	0	0	3.4	3.4
理念・目的・育成人材像・将来構想などの学生・保護者等への周知	1	4	0	0	3.2	3.2
各教科の教育目標、育成人材像の学科等に対応する業界のニーズに向けた方向づけ	5	0	0	0	4.0	3.6

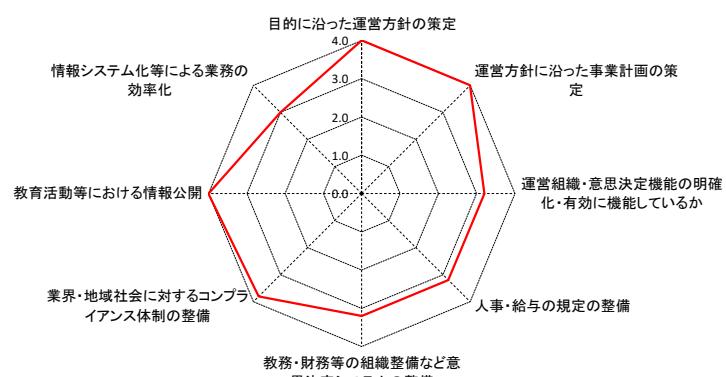


・評価によって表出した課題及び考えられる改善策

- パンフレットやHP等、とても興味をひく紙面となっている。多くの方々の手に触れ、ページをめくっていただけるような場所にパンフレットをおいてはいかがでしょうか。
- 外国人の入学も将来的な視野をおかれているとのことですが、中国・ベトナムからの留学生が「介護環境科」で学び、自国で専門を生かした就職に結びつくような入学特別枠や学生支援機構からの援助が得られないだろうかと考えました。色々と法的なしづらがあり難しいと思いますが…。
- 保護者との関係づくりが課題となっておりますが、直接的対話の乏しさを広報誌や各種通知により十分補っていると思います。その中でまずは学生にしっかりと向き合うことが大切でしょう。
- 学校の理念や目的・目標などを整備いただき、周知に関しても様々な取り組みをされておりますが、一朝一夕では見える形での成果を見ることは難しいものと思われますので、今後も継続的に進めていただきたいです。
そのような中でも学校運営の基盤として教職員全員の理解が進んでいくことが重要であり、一致した認識のもと学生や保護者へも理解を広めていただきたいです。
学生や保護者への周知については、わかりやすく伝えるための工夫も大切であると思いますが、学生・保護者側にも意識改革を促し自ら情報収集していただくことも必要だと思います。

2 学校運営

	4	3	2	1	平均	昨年度
目的に沿った運営方針の策定	5	0	0	0	4.0	3.8
運営方針に沿った事業計画の策定	5	0	0	0	4.0	3.6
運営組織・意思決定機能の明確化・有効に機能しているか	1	4	0	0	3.2	3.2
人事・給与の規定の整備	1	4	0	0	3.2	3.4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムの整備	1	4	0	0	3.2	3.4
業界・地域社会に対するコンプライアンス体制の整備	4	1	0	0	3.8	3.8
教育活動等における情報公開	5	0	0	0	4.0	4.0
情報システム化等による業務の効率化	0	5	0	0	3.0	3.0



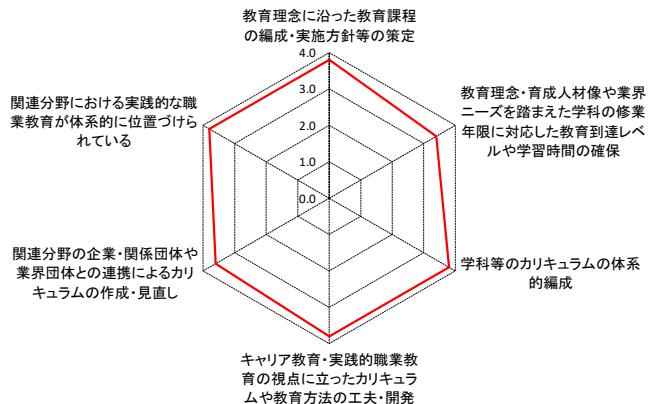
・評価によって表出した課題及び考えられる改善策

- 近年ICT化の流れが加速しているが、よく吟味して活用されると、とても効率がよいと思われる。
- 校長のリーダーシップのもとに補助金を獲得した事業を展開し、地域貢献を充分に行いながら、釧路専門学校の存在を発信されている良好な運営体制を保持されている。
- それぞれの教職員において活発に意見交換するところから運営改善は生まれてくるのだろうと思います。出来るところから進めることが肝要です。
- 学校運営にかかる様々な計画策定が進んだことで、その計画をどう運用して実現していくかに視点が移ってきたことが、学校評価の課題から見て取れます。
PDCサイクルの実現からも望ましい方向思いますし、学校運営の関係者の皆様の常に問題意識をもって運営に当たられる姿勢は素晴らしいと思います。
ぜひ、こうして出てきた課題を検討いただき計画のブラッシュアップを図り続けていただきたいです。

3 教育活動

(1)教育課程

	4	3	2	1	平均	昨年度
教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等の策定	4	1	0	0	3.8	3.8
教育理念・育成人材像や業界ニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保	2	3	0	0	3.4	3.6
学科等のカリキュラムの体系的編成	4	1	0	0	3.8	3.8
キャリア教育・実践的職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発	4	1	0	0	3.8	3.8
関連分野の企業・関係団体や業界団体との連携によるカリキュラムの作成・見直し	3	2	0	0	3.6	3.6
関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられている	4	1	0	0	3.8	4.0

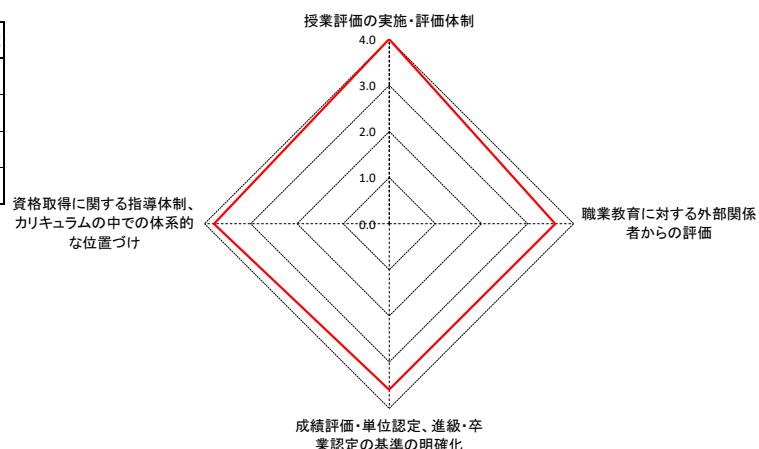


・評価によって表出した課題及び考えられる改善策

- 職員不足で残念ながら開講できなかつた時数が多かったように感じた。新カリキュラム体制では、最低限必要とされる時数の他に余裕のもてる講座開講があると更に魅力的な学校となるだろう。
- 地域連携を活用され、実践的な時間を充分に保たれた特色ある教育課程だと評価いたします。
- 非常勤教員との共通理解の必要性については共感するところです。新しい教育課程への諸準備、大変でしょうか、それを整備していく過程の中での協働も大事かと思います。
- 時代の変化に合わせてのカリキュラム編成などご苦労が多いと思いますが、学生がニーズに合った専門職士となれるよう、進めていただきたいと思います。
実習については、実践的な研修を通して学生が大きく成長出来ると思いますので、何かと制約があるかと思いますが、今後も積極的な取り組みをいただきたいと思います。

(2)指導・評価

	4	3	2	1	平均	昨年度
授業評価の実施・評価体制	5	0	0	0	4.0	4.0
職業教育に対する外部関係者からの評価	3	2	0	0	3.6	3.6
成績評価・単位認定、進級・卒業認定の基準の明確化	3	2	0	0	3.6	3.4
資格取得に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的位置づけ	4	1	0	0	3.8	3.6

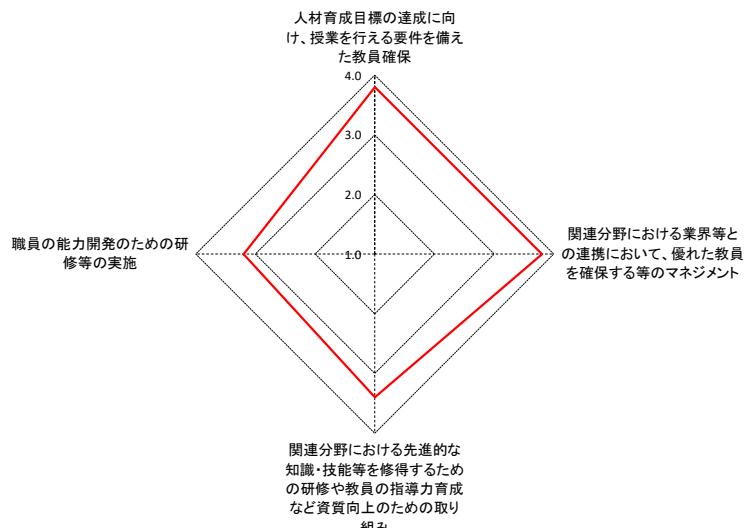


・評価によって表出した課題及び考えられる改善策

- 職員間の授業公開による授業改善へ向けた取り組みは互いのよさを認め合い、よいと思ったことは自分にも取り入れられるので今後もぜひ続けていただきたい。
- 管理職・教員・事務職員が全体として数が多くないゆえに、相互理解や連携がとられている中で、良い関係を更に深めていき、更に良い人材養成ができるることを確信し、期待しております。
- 授業評価につき教員相互での協働により進めることは、大変良い事だと思います。学生アンケートをも有効に取り入れ、客観的な視点を受け入れる中からより良い授業への指向性が見い出されるものと考えます。
- 本来積極的に専門的な知識などを学びたい学生が在籍すべき中で、学ぶ意欲が低い学生に対する指導や評価の工夫をされていることに敬意を表します。解決に向けた課題はあるかと思いますが、引き続きお取り組みいただくことで、学校にも学生自身にも成果がでて来るものと期待します。

(3)教員・研修

	4	3	2	1	平均	昨年度
人材育成目標の達成に向け、授業を行える要件を備えた教員確保	4	1	0	0	3.8	3.4
関連分野における業界等との連携において、優れた教員を確保する等のマネジメント	4	1	0	0	3.8	4.0
関連分野における先進的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組み	2	3	0	0	3.4	3.8
職員の能力開発のための研修等の実施	1	4	0	0	3.2	3.4

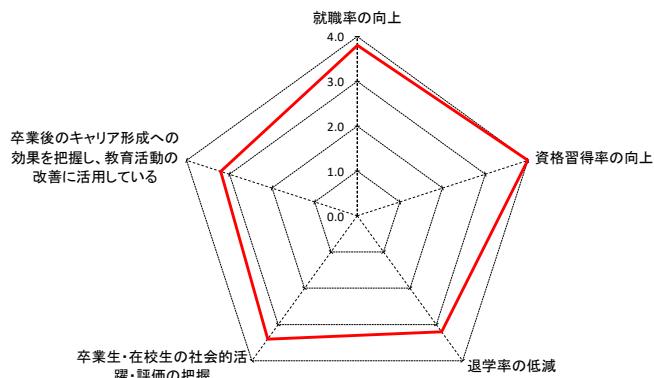


・評価によって表出した課題及び考えられる改善策

- 限られた職員数や限られた時間の中での遠方への研修参加は、現実的に難しい。サテライト方式等を利用した研修会が釧路の地でも行われることを強く望む。
- 春・夏・冬休みには既成の研修ではなく、それぞれの教職員の個人の興味・関心に添った研修の期間を交代で保障し、それぞれの成果をメール報告する等の取り組みで、学んだことやアイデアを共有するなどはいかがでしょうか？
- 多忙な中、研修に参加するということは、大変エネルギーのいることだと思います。教職員相互の支援、効率的な参加形態の運用、一人の研鑽実績の共有化などを通して尽力されることを期待します。
- 業務多忙の中での研修は、ご苦労が多いと思いますが学生にとって魅力ある学びの場を提供し続けるためにも継続してお取り組みいただきたいと思います。
また、そのための人的体制の整備も同時に進めていただき、積極的に教職員が学べる環境づくりも進めていただきたいと思います。

4 学修成果

	4	3	2	1	平均	昨年度
就職率の向上	4	1	0	0	3.8	4.0
資格習得率の向上	5	0	0	0	4.0	4.0
退学率の低減	1	4	0	0	3.2	3.6
卒業生・在校生の社会的活躍・評価の把握	2	3	0	0	3.4	3.6
卒業後のキャリア形成への効果を把握し、教育活動の改善に活用している	1	4	0	0	3.2	3.4



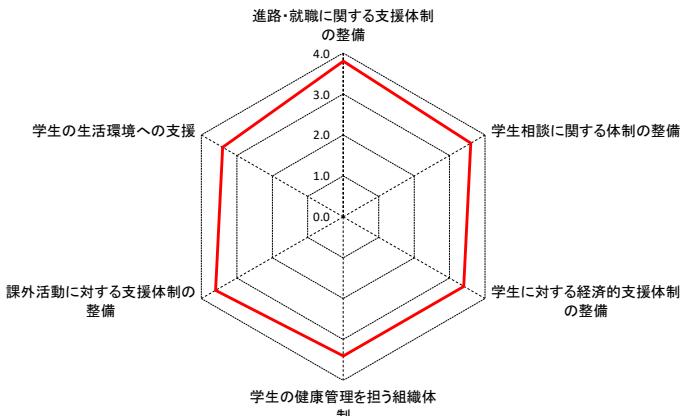
・評価によって表出した課題及び考えられる改善策

- 退学の学生に対しては、保護者も含めた話し合いの場を設けることは適切と考えられる。退学となると学校に戻れなくなってしまうので、休学という形をとり懇談を何度か設け、年度内であれば、また学校に戻ってこられるというような制度があつてもよいかと思う。
- 多様な職種への就職なので、卒業生の活躍を把握することはむずかしいと思いますが、卒業後の追跡調査を計画されていると思いますので、インターネット回答ができるような、また、学校側からの情報も届くような方策があれば良いと思います。
- 日々学生とコミュニケーションを図っていても、やむを得ない事情での退学もあることだと思います。卒業生との交流も進めておられるので良いことだと感心すると共に、より学校への支援を求めてはどうかと考えます。
- 専門学校で学ぶ学生・保護者にとって進路指導がしっかりしていることは、とても重視していることと思われますが、就職率の向上に対する評価が前年より上回っていることは、日頃の学校のお取り組みの成果だと思います。
退学生の問題などの課題はありますが、ほかの評価ポイントの課題や成果とあわせて今後もお取り組みいただきたいと思います。

5 学生支援

(1) 支援体制

	4	3	2	1	平均	昨年度
進路・就職に関する支援体制の整備	4	1	0	0	3.8	3.8
学生相談に関する体制の整備	3	2	0	0	3.6	3.8
学生に対する経済的支援体制の整備	2	3	0	0	3.4	3.4
学生の健康管理を担う組織体制	2	3	0	0	3.4	3.4
課外活動に対する支援体制の整備	3	2	0	0	3.6	3.6
学生の生活環境への支援	2	3	0	0	3.4	3.4

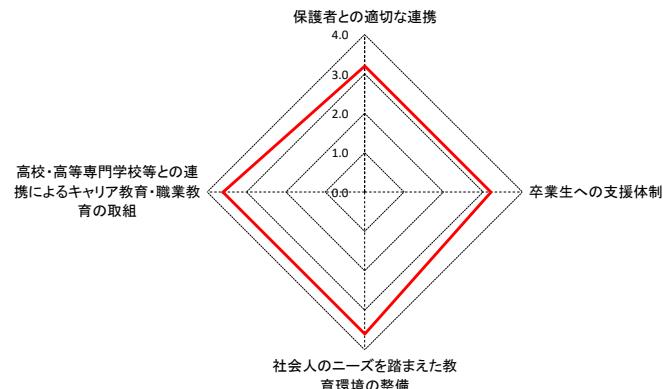


・評価によって表出した課題及び考えられる改善策

- 講義の中での教育というよりは、人としての生き方=道徳教育が幅広く求められている。担当の先生以外でも相談できる体制は素晴らしい。
年々企業による支援体制が整い増えてきているのはとてもうれしいことだが、少子化の時代、自治体が教育支援の予算をもう少し計上していただけたと保護者としてはうれしいであろう。
- 学校側からができる範囲での学生への支援体制が行われ、特に、ひとりひとりの学生へのきめ細かな支援がなされており、財政的・人に限られた中でできる最良の支援であると考えます。
- 学生にとっての修学援助等に関する情報収集と提供、加えて新しい制度創設への働きかけなど、努力なされていると思います。TA(ティーチング・アドバイザー)は良いシステムと考えます。充実されることを願います。
- 自己評価は前年より改善し、支援される側の満足度が上がっていることは良いことだと思います。しかし一方で支援する側の負担増が顕在化しており、支援体制の整備を怠かなくては教員側の負担は今後も増え続けるものと感じます。学生が安心して学べる環境を維持するためにも、出された課題にお取り組みいただきたいと思います。
「学生のアルバイトについては、学生の自主的な管理だけでは難しいと思いますので、アルバイト先の協力を得られる仕組みづくり(学校として望ましいアルバイトの仕方の明示など)を進めてほしいと思います。」

(2) 連携体制

	4	3	2	1	平均	昨年度
保護者との適切な連携	1	4	0	0	3.2	3.6
卒業生への支援体制	1	4	0	0	3.2	3.2
社会人のニーズを踏まえた教育環境の整備	3	2	0	0	3.6	3.4
高校・高等専門学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組	3	2	0	0	3.6	3.8

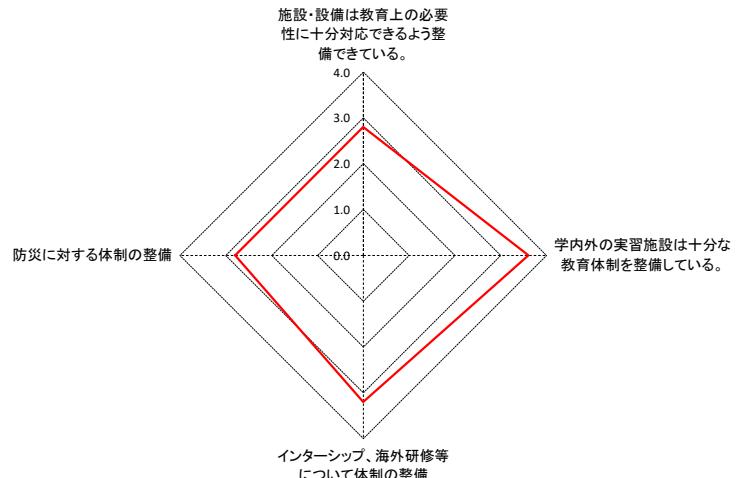


・評価によって表出した課題及び考えられる改善策

- 心の病や職場でのコミュニケーションがうまくいかず、リタイアしてしまいそうな時、気軽に学校へ相談できる窓口があるとよい。卒業後、定期的に連絡がとれるような時間があると、リフレッシュできそうな気がする。
- 今年度以降も、同窓生が集まって情報交換ができるような体制づくりのために、学校側からの支援の継続を期待します。
- 介護専攻科同窓会を初めて開催されたようで、大変素晴らしいことだと思います。その他の同窓生を含め、学校の応援団として協力いただくことが増えていけば良いと考えます。
- 保護者との連携は、保護者側の意識の問題からご苦労されている様子が見られます。改善に向けた突破口はなかなか見いだせないかと思いますが、今後も丁寧に進めて信頼醸成を図っていただきたいと思います。
卒業生への支援・連携は、新たな学生の紹介や現場で求められている知識技能などの情報把握など多岐にわたって学校にとって大きな財産になるかと思います。学校組織として取り組みが進むよう検討いただきたいと思います。

6 教育環境

	4	3	2	1	平均	昨年度
施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備できている。	0	4	1	0	2.8	3.0
学内外の実習施設は十分な教育体制を整備している。	3	2	0	0	3.6	3.2
インターンシップ、海外研修等について体制の整備	1	4	0	0	3.2	3.4
防災に対する体制の整備	0	4	1	0	2.8	3.4

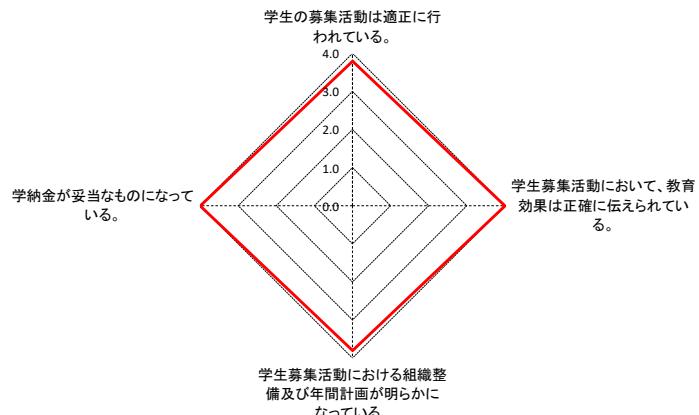


・評価によって表出した課題及び考えられる改善策

- スクールバスを利用した体験型の授業を多くとり入れ、学生にとって新しい発見の場や見る目を養う時間となっていることが素晴らしい。古い校舎をいかに有効活用できるか、学生と共に考えてもよいと思う。
- 将来的にインターンシップや海外研修も自由選択単位として整備していくことが求められているなら、例えば、まず個人で開拓した施設、企業へのインターンシップ、個人の計画書に沿った海外研修を複数の教員で評価を行うことなどが考えられます。
- 防災等に関し、各階避難はしごの使い方訓練を行うことは大変重要なことで、実際に身体で体験し、いざ災害という時に備える必要があると思います。
- ハード面の問題は、財政的な課題を解決しなければ難しいと思いますが、学生や保護者が学校の魅力としてとらえる大きな要素でもあり、安全面からも着実に解決に向けた取り組みをしていただきたいと思います。

7 学生の受け入れ募集

	4	3	2	1	平均	昨年度
学生の募集活動は適正に行われている。	4	1	0	0	3.8	3.6
学生募集活動において、教育効果は正確に伝えられている。	5	0	0	0	4.0	3.6
学生募集活動における組織整備及び年間計画が明らかになっている。	4	1	0	0	3.8	3.4
学納金が妥当なものになっている。	5	0	0	0	4.0	3.8

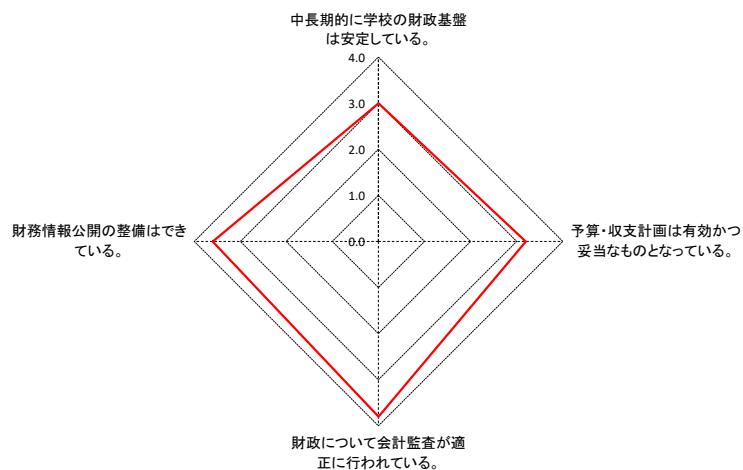


・評価によって表出した課題及び考えられる改善策

- ブースを設けた所に高校生や中学生が説明を聞くことができる試みはよい。ぜひ、パンフレットに掲げられていることを一つでも多く伝え、魅力ある学校であることを知ってほしい。
- 学校案内の目次に対応した各ページにページ表記がないので、もしも表記が可能であれば検討をお願いしたいと考えます。
- 北海道補助金による事業は、有効なPR活動となっていると思います。各種事務の繁雑さは、役割分担により緩和しながら、今後とも積極的な導入を期待します。
- 現在も様々な工夫をしながら情報発信・募集活動をされていると思います。今後もオープンキャンパスなどの募集活動の効果の検証をしながら、より良い活動につなげていただきたいと思います。

8 財務

	4	3	2	1	平均	昨年度
中長期的に学校の財政基盤は安定している。	0	5	0	0	3.0	3.4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっている。	1	4	0	0	3.2	3.6
財政について会計監査が適正に行われている。	4	1	0	0	3.8	3.8
財務情報公開の整備はできている。	3	2	0	0	3.6	3.8

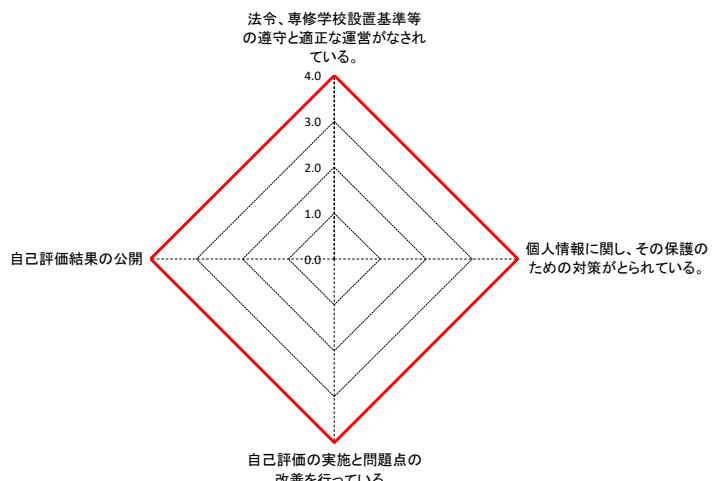


・評価によって表出した課題及び考えられる改善策

- 充足率が50%を切っているという中での財務安定は困難であるが、限られた予算の中でいかに学生を育てあげるか、ご努力されている職員の皆様には敬意を表したい。
- 更なる補助金、助成金の獲得。(これまでご尽力なされていますが)
- 財務はコンプライアンスにつき、一番社会的評価につながるところだと認識します。適正適格に執行されていると思いますので、継続されることを期待します。
- 財務の状況については、勤務されている職員の皆様の関心が高い部分だと思います。安定的な経営をされていることだと思いますが、数字面だけでなく先の見通しを示していただき、安心して職務に当たれるよう職員の皆様とのコミュニケーションをお願いしたいと思います。

9 法令の遵守

	4	3	2	1	平均	昨年度
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされている。	5	0	0	0	4.0	4.0
個人情報に關し、その保護のための対策がとられている。	5	0	0	0	4.0	4.0
自己評価の実施と問題点の改善を行っている。	5	0	0	0	4.0	3.8
自己評価結果の公開	5	0	0	0	4.0	4.0

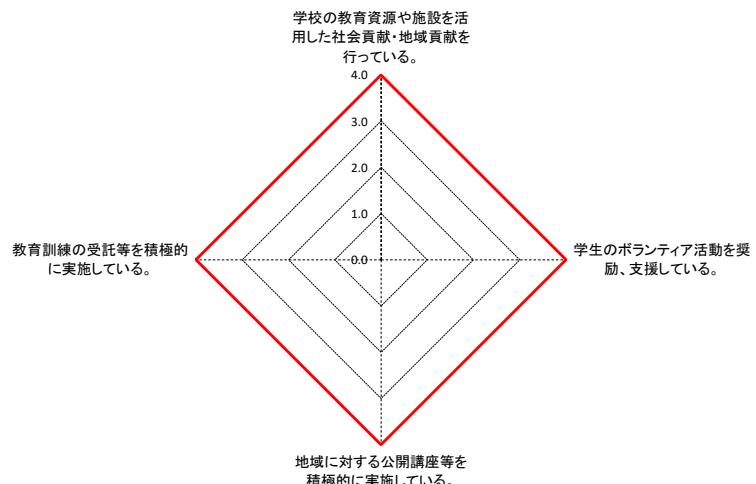


・評価によって表出した課題及び考えられる改善策

- 改善点を挙げるだけではなく、改善策もしっかりとと考えられている職員がおられるので、話し合いがスムーズに進められると思う。
- 全教職員が一丸となって取り組みをされていることが伝わってきます。
- 評価の結果につき、教職員間での共有と、未来に向かっての協議が必要だと思います。年間スケジュールの中でルーチンとして設けることが大切と考えます。
- 今年度の学校自己評価から前年度よりさらに改善に向けた意識の向上が表れてきており、今後も一層の向上の為にも課題を解決していく体制づくりを進めていただきたいと思います。

10 社会貢献・地域貢献

	4	3	2	1	平均	昨年度
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っている。	5	0	0	0	4.0	4.0
学生のボランティア活動を奨励、支援している。	5	0	0	0	4.0	4.0
地域に対する公開講座等を積極的に実施している。	5	0	0	0	4.0	4.0
教育訓練の受託等を積極的に実施している。	5	0	0	0	4.0	4.0



・評価によって表出した課題及び考えられる改善策

- 介護と保育の魅力発信の補助金をぜひまた活用していただき、地域活性化へつなげていただきたい。
- 若者の目に届く広報を望みます。
- 本来の教育活動が大変忙しいなか、本校の社会貢献・地域貢献には素晴らしいものがあると認識しています。これから更に報道機関等の支援を受けながらアピール出来ると良いと考えます。
- 学校自己評価では前年より下がっているものの、全体として良い評価となっていることは日頃からの取り組みの成果だと思います。今後も継続した取り組みをしていただきたいと思います。
地域との結びつき・連携は、難しい課題ではありますが、地域のニーズを探りながら学校として取り組めることを少しずつ進めていただきたいと思います。

●他の課題

- 釧路市内でも「釧路専門学校」の存在や特色を知っている人は多いとはいえず、釧根唯一の専門学校であることをアピールし、入学生を増やす方策が求められると考えます。
- 養成校独特の課題の改善。
- 学校自己評価を通して問題意識や問題解決に向けた提案など回を重ねるごとに深耕しているように思いました。学校職員全体がそのような意識で一丸となって向き合っていただけることで、よい方向へと向かっていくことだと思います。
課題も多岐にわたっており、それらをすべて活かすことは大変なことだと思いますが、改善につなげて成果を上げていくことこそが学校評価を行う目的の一つであると思いますので、これからも進めていただきたいと思います。

○考えられる改善策

- 若者は新聞を読む機会が少ないので、インターネットの上位に色々な取り組みのキーワードを入力すると「釧路専門学校」が出てくるようなシステムが導入できないだろうかと考えます。例えば、「釧路」と入力すると、釧路専門学校のオープンキャンパスや中学校・高校が来校したこと、同窓会、リカレント講座・講演会などが出てくると、知名度が高まると思いました。精力的な訪問広報を行っておられるので、合わせると、相乗効果が生まれそうな気が致します。
- 道内外の養成校との連携を更に強め、国にとって各種専門職人材確保の重要性を世に問い合わせ、アピールする活動を高める。

学校としての改善策

1. 教育理念・目的・育成人材像

●教育理念・目標は教職員だけでなく、学生・保護者等にも学生生活（の様子）を通して、各々の立場から意識・理解していくことが大切だと思います。それに向け、学校案内の改訂、ホームページにおいて学校の特色や取組、学生の学びの様子を数多く紹介するなど、「発信」の充実に向けて取り組んでいるところですが、更によりよいものになるように努力していきたいと思います。また、保護者に学校の願い等を直接語りかけることができる場は少ないので、来年度は大部分の保護者が出席する人字式（保護者説明会）の充実に取り組みたいと思います。

2. 学校運営

●学校運営に係る様々な課題については、これまでの振り返りを大事にしながら、教職員一人ひとりが主になり判断と決定をしていく「ティール運営」を導入することで業務の活性化と効率化を目指したいと思います。

3. 教育活動

(1) 教育課程

●今年度、こども環境科は2019年度からスタートする新カリキュラムの編成作業に取り組みました。介護環境科は、2021年度の新カリキュラム移行に向けた取り組みが来年度の大きな作業になります。この節目を絶好の機会ととらえ、実践（こども環境科）や移行作業（介護環境科）を通してアドバイスいただいた課題に取り組みたいと思います。

(2) 指導・評価

●評価の改善についても、上記新カリキュラムの実践や移行の取組の中で振り返りを持ちたいと思います。また、全教員の公開授業も、授業力向上及び評価の充実、共通理解の観点から継続実施し、協働体制をより強いものにしていきたいと思います。

(3) 教員・研修

●今年度は、9月に教育大から講師を派遣いただき、全教職員を対象とした研修会（テーマ：学生の理解と支援の視点）を実施しました。講義とグループ討議を交互に行い、テーマに沿って学びを深めることができました。次年度も課題を共有する観点からも是非取り組みたいと考えています。校外における研修への参加については、業務や経費等の関係から大変な面が多いですが、学校として計画的な参加を進めていくことができればと考えています。

4. 学修成果

●退学率低減に係わっては、本校が学生指導の基本に据えている「学生の気持ちにより添って支援していく姿勢」を大切にしながら、今後も丁寧な関わりを意図的・計画的に進めていきたいと思います。

●介護専攻科が平成30年度から休科となったことと、科設立20周年の節目を迎えたことから、7月、介護専攻科同窓会を開催しました。282名中111名（40%）の卒業生が参加してくれ、様々な意味で大きな成果をあげることができました。卒業生が就職した後、どのような道を歩み、どのような活躍をしているのかを把握することは学校の教育活動の振り返りに大いに役立つことから、今後取り組みを進めていきたいと思います。

5. 学生支援

(1) 支援体制

●TAを中心とした個人面談を定期、不定期に実施し、生活相談、教育相談、就職相談などきめ細やかな指導を目指していますが、更なる充実に向けて努力していきたいと思います。

(2) 連携体制

●4学修成果の項で述べたように、卒業生が応援団となってくれるような取り組みを進めて行くことができればと考えています。保護者との連携については、学生の生活様子を知らせることができますスタートのように思います。学校からの発信をどのように進めていくかを検討したいと思います。

6. 教育環境

●自己評価、学校関係者評価においても他に較べると比較的低い評価である。中長期的な展望の中で少しづつでも教育環境を整えながら、望ましい教育活動の場としていきたいと考えます。

●スクールバスを利用した体験型の授業は、本校の特色ある教育活動の大きな要素になっています。今後もその良さを大いに生かし、学生の学びを充実させていきたいと思います。

●教育環境の整備については財政的な面からの難しさがありますが、中長期的な展望の中で少しづつでも整えながら、望ましい教育活動の場としていきたいと考えます。また、清掃・整理整頓が行き届いた環境は、充実した学びを支える第一条件と認識し、「古いけれど輝いている学校」を学生といっしょに作り上げて行くことができればと思います。

7. 学生の受け入れ募集

●1. 教育理念・目的・育成人材像の項で述べたように、学校案内の改訂、ホームページの工夫など、「発信」の充実に向けた取り組みを進めています。また、学校訪問やオープンキャンパスについても充実に向け努力しているところです。今年度は、「介護のしごと魅力アップ推進事業」（道）の指定を受け、講演会の実施（参加者600名）、オープンキャンパスの工夫などに取り組みました。結果として、平成31（令和元）年度入生においても減少が続いている、大きな課題となっています。介護福祉士養成校としては釧路唯一の専門学校であり、また保育については、文科省指定の北海道唯一の専門学校として、更に積極的に発信していきたいと思います。

8. 財務

●充足率が50%を切っており、財政の安定は難しい面が多いが、限られた予算のなかで最大限の成果を生むように、今後も努力を続けていきたいと思います。

9. 法令の遵守

●法令遵守は組織運営の根幹に係わる最も重視されるべき事項です。引き続きしっかりと対応していきたいと思います。

10. 社会貢献・地域貢献

●社会貢献・地域貢献は本校のビジョンとして大切にしたいことのひとつになっています。地域から要請のボランティア活動、本校自然環境教育センター主催による市民参加型の「釧路自然再発見シリーズ」「講演会」など、今後も継続して取り組んでいきたいと考えています。